

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072500410		
法人名	社会福祉法人 高瀬会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム もみの樹		
所在地	和歌山県東牟婁郡古座川町高瀬423-2		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3072500410&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご利用者がサービスを受けるだけの立場でなく、与える側に立つことのできる支援」の実現をテーマに運営しています。地域交流として保育所や食事会での紙芝居上演を続けていきたい。ご利用者様同士が役割を分担して支援し合う関係が生まれています。ご利用者様も職員も誰かの役に立っていることを喜びとして生活を築いています。本年度は台風12号の水害でエレベーターが使用不可となったり、インフルエンザ等の感染予防対策として外出・外泊、面会等が制限され、本来の活動が十分に行えなかったのは残念です。今後もご利用者様・職員共に理念通りに笑顔を通り笑顔で明るく生活していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「役割をもって生活していただく」ことを目標に掲げ、本人・家族の意向、職員のアイディアなどをもとに調理、掃除、手芸、買物など、互いが役割を担い支援し合う関係を目指し、共同生活として質の高い運営が継続されている。地域との交流においても保育所での紙芝居上演など、誇りとやりがいを大切に運営がなされてきた。23年度後半は甚大な水害被害、感染症の流行による外出制限などにより本来の活動が十分に行われなかったが、厳しい環境においても管理者・職員が協働して入居者の豊かな生活の支援に向け努力を続けていたことが伺える。管理者は職員の自主性を尊重した指導を心掛けており、職員は入居者の意向を大切に肯定的に支援することを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から「いつも明るく笑顔の絶えないホーム作」を理念として実践してきた。「入居者に家の次ぎにここがよいと感じてもらいたい」、「自分から笑顔を向けていく」など、職員は意欲的であり、日常的に理念を意識して実践しています。	管理者と職員は日ごろから「笑顔の絶えないホーム」であることに意を用い、笑顔で語りかけることを大切にしている。「家の次にここがよい」と感じてもらえるようにと意欲的に業務に取り組んでいる様子が伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事に地域の方々を迎え積極的に交流が図れている。入居者が保育所や地域の食事会に出向いて地域の方と交流しています。	町主催のサロン活動への参加、婦人会からの訪問、保育所を訪ねての紙芝居上演など、積極的に地域との交わりを進めている。今年度は水害と感染症による外出制限により下半期の活動が縮小されたものの、地域との交流は充実している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の食事会に参加し、事業所の取り組みをお話させて頂き、少しでも在宅での認知症予防・介護にあたられている方々に参考にして頂ければと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催を続けており、分かりやすくホームの活動を報告している。その都度家族からの参加も呼びかけ出席を得ている。活動報告をして意見・助言を求めるなど、運営推進会議を外からの情報を得る機会と捉え、積極的に活用しています。	家族、行政職員、民生委員などが参加して定期的に開催されている。説明資料にスライドを用い事業所の様子を詳細に報告している。委員会は意見を伝えやすい雰囲気があり、家族からは具体的な苦情や要望も寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に担当者との情報交換・相談が行われている。災害対策やワクチン接種補助の交渉など、具体的なサービスの向上に繋がる成果を得ています。	管理者は、介護認定更新や入居相談などで日常的に担当者と連携している。福祉課職員が運営推進会議に参加することで事業所情報が伝えられている。入居者の福祉サービス利用についても連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内でも「身体拘束委員会」が設置されており、年に数回各事業所の実態、取組みを発表している。利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫を意識しています。	法人の身体拘束廃止委員会に参加し、研修や事例検討を行っている。行動制限が身体拘束に繋がることを理解しており、職員の言葉や態度からも行動が制限されないよう意を用いている。禁止項目に挙げられる身体拘束ゼロを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修計画に基づき継続的に職員が研修を行うことで、理解を深めるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修計画に基づき継続的に職員が研修を行うことで、理解を深めるよう努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金、起こりうるリスク、退去の要件等をご家族とご本人に説明し、ご理解・納得して頂けるように努めています。介護報酬の改定に伴う利用料金の変更時は、ご家族様に個別に説明させて頂き相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対面して意見交換ができるよう家族がホームに来やすい雰囲気を心がけ呼びかけにも努めている。誕生会等の行事の他、年2回の家族を交えた食事会の開催、運営推進会議への参加呼びかけなど、家族との交わりの機会を多く持ち出席を得ている。苦情受付体制、意見箱も整備されている。	家族・親族との食事会を年2回開催し、調理から共にして交わりを深めている。「暮らしのご様子」シートにより入居者の生活を詳細に伝えることで、要望や意見が伝え易い雰囲気を作られており、面会の頻度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月定例の処遇会議を通してディスカッションして会議録として回覧している。普段から職員が意見や提案を言いやすい関係、雰囲気作りに努めています。	毎月1回の「処遇会議」の他、毎朝30分を申し送りにあて、申し送りノートも併用して職員の意見や提案を聞く機会としている。管理者は着任1年目であるが職員が意見や提案をしやすい雰囲気作りを心掛けており、よい関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々の面接によって把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に沿って積極的に参加している。管理者は職員個々の特性・能力に配慮した役割分担を行い、「任せ委ねる」ことで職員の成長を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員が見学に来られ、日々の取り組み等についてお互いに意見交換し、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者宅への訪問と施設見学をしていただきます。ご本人が困っている事、不安な事、求めている事等を聴取し出来る限り受けとめる努力をしています。必要に応じて担当ケアマネの同席を依頼しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご利用者宅への訪問と施設見学をしていただきます。ご本人が困っている事、不安な事、求めている事等を聴取し出来る限り受けとめる努力をしています。必要に応じて担当ケアマネの同席を依頼しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人・ご家族の実情や要望をもとに、何が必要か見極め、必要に応じて他のサービスの利用調整を行うなど、安心・納得して利用して頂くよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の聞き取りによりアセスメントして入居者理解を図っている。入居者が受け身の立場ではなく、その方の経験や力を発揮できる場面を多く作れるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者の生活歴を出来る限り把握し、ご利用者が受け身の立場ではなく、その方の経験や力を発揮できる場面を多く作れるよう努力している。また、随時面会・外出支援の機会を促す電話連絡もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別処遇として今まで住んでいた地域に出かけ、知人や友人との会話を楽しむなどの支援を行っています。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りを行い、これまでの関係を継続していけるよう働きかけています。	誕生会や墓参りで日常的に出身地に出かけている。併設するデイサービスセンターを利用する友人との交流や、法人全体の行事を通じての交流も定期的に行われている。訪問が少ない時にも電話の取次ぎで関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が共同で作業を行う場面作り、ご利用者一人ひとりが得意な事を行って頂き、それを他のお客様に認めて頂ける場面を作れるよう配慮し、日々のケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所を退居された方に、他の事業所に会いに行く。また、そのご家族との年賀状のやりとりや盆踊り大会等の行事のご案内を送付する等の支援を行い、関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との日々の会話や行動、表情等から思いや希望を把握し、それが出来るだけ実現できるように職員間ご家族を交えて相談を行っています。	職員は、会話、行動、表情などから入居者の意向を熱心に収集して申し送りノートに記録し、処遇会議で検討されている。家族に対しても生活歴などから処遇のヒントが得られるよう聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供頂き、アセスメントに落としこむ作業を行い、入所後もより詳しい資料が作れるようご家族様も含めて情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者一人ひとりの生活リズムを申し送りノート・個別記録・ご利用者と関わりを持つ事により、現状を総合的に把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族と関わりをもつ中で、希望や思い等の情報を収集し、職員間でケアカンファレンスを行い、ご利用者がやりがいを持って安心して生活していくことができるように話し合いを行っています。	「役割をもって生活していただく」ことを目標に掲げている。本人・家族の意向、職員のアイデアなどをもとに調理、掃除、手芸、買物などを盛り込み、人の役に立っていることを実感できるよう計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や状態・気づき等を記入し、職員は勤務前に必ず確認し、情報の共有に努めています。また、それを介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所と連携をとりご本人やご家族の要望に柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町職員、民生委員、地域包括支援センター、ご利用者のご家族に参加して頂き、地域の資源を活用できるようにアドバイス頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人ご家族の希望を伺い、かかりつけ医を決定しています。通院介助もご家族が行けない場合は職員が行いその結果を報告しています。	入居者は法人が併設する診療所を主治医としているが、他科受診は家族の同行を基本としている。介護が必要な場合には管理者を中心に職員が同行して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に診療所があり、状態等に変化があれば気軽に相談できる関係を築けている。夜勤帯における事故や容態急変の場合は、隣接する介護老人保健施設の看護職員の応援態勢が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会を行い、ご本人の状態を把握できるように病院関係者やご家族との情報交換に努めている。退院する場合も法人内の診療所と連携する体制が整っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人が多機能サービスを行っていることから、ご本人ご家族の希望やその時々状態にあったサービスを選択して頂けるよう法人全体で連携を図っている。	入居者の希望と状態に応じたサービス提供ができるよう本人・家族と相談が行われている。法人が併設する老健、特養へは、要介護度4を目安に住み替えの検討を勧めている。	家族の希望を受けて、法人内診療所の医師の協力により、看取りを行った経験がある。診療所の医師、老健の看護師に協力を依頼できる可能性があり、終末期ケアの充実に向け今後の検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備えてマニュアルを整備している。また、法人内で救急救命の研修も定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報設備・非常放送設備・スプリンクラーの消防設備が完備され、併設施設との合同による昼間・夜間避難訓練が実施されている。地元の高瀬地区とは法人として災害時の協力協定が結ばれており、非常時に備えています。	高瀬区と災害協力協定が締結されており、火災警報が地元区長に自動通報されるなど協力関係が築かれている。河川沿いの立地で昨夏の台風被害も経験しており、法人全体で浸水被害への対応と備えが検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇りを尊重し、状況や場面に応じたさりげない声かけや対応を行っている。また、記録や個人情報の取り扱い、礼儀についても研修を行い情報漏洩の防止に努めています。	法人として「尊厳の保持」を掲げ、一体となって丁寧で誇りを大切にされた言葉かけに力を入れている。事業所の職員は家庭的な雰囲気や言葉を大切に、丁寧語や方言など場面に応じて臨機応変に対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常の会話や表情から希望をくみとれるよう心がけています。選択肢を多く用意する事で、自己決定の場面を生み出すように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の会話の中で、どのような毎日を過ごしたいか聞きとり、一人ひとりの生活のペースを大切にしながら出来る限り希望に添えるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重し、ご利用者と共に衣類等を選び、職員の意見を押し付けないように配慮している。外出に合わせて行きつけのお店を訪れ購入するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理は職員とご利用者が一緒に行っています。一人ひとりの力や状態を把握し、全体の雰囲気作りを大切にしながら楽しんで行っています。ご利用者と一緒にお買い物に出かけ食材を選んで頂くなどの支援も行っています。	毎食をホームで調理し、入居者は買物、下ごしらえ、配膳など役割を分担している。残滓から嗜好を把握し、栄養士との相談により献立を作成している。野菜の栽培、キンカンジャムや干し柿作りを行っており、誕生会のケーキも手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月給食会議において食事の希望が把握され、これを基に栄養士が栄養バランスを考慮して献立を作成している。毎食の食事摂取量が記録され、「暮らしの様子」シートにてご家族にも報告しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態や出来る力に合わせて、口腔ケアの声かけや見守り、介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録で排便の有無や時間帯等を確認して排泄パターンを把握しています。また、自立心、自尊心に配慮した声かけ・介助を心がけています。	医師との連携により、下剤を極力使用せず、食材の工夫やマッサージにより自然排便を目指している。同性介護を基本とし、排泄に課題のある入居者は排泄リズムを「暮らしのご様子」シートに記録し改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分補給をこまめに行い、牛乳やヤクルトを飲んで頂く等の支援を行っている。また、トイレ介助時のお腹のマッサージ等も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方の入浴が多いですが、その日の気分や希望に対応しています。ご利用者の好みに合わせた温度調整を行い、温泉浴・檜風呂のどちらかを選んで入浴して頂いています。	複数人浴槽と個人浴槽を備えて、毎日入浴できるよう支援している。プライバシーに配慮し複数人浴槽においても一人ずつの入浴を基本としているが、友人同士での入浴など、入居者の希望に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるように、その日の状態を考慮し活動への参加を促しています。夜間眠れないご利用者に対しては、悩みや相談の傾聴、温かいお茶を飲んで頂く等の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は職員が行い、薬の配布、きちんと服薬できるかを確認しています。現在、服用している薬、副作用の説明書を共有し、状態に変化があった場合には記録し、主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の今までの活動の様子や生活歴、趣味を記載した自分史を活用し、農作業、園芸、裁縫、手芸等の個々の活動を支援しています。また、定期的に外出の機会を設けて気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設への訪問、高瀬地区周辺を散歩、スーパーへの買物、個別処遇としてお墓参り等を行い出来る限り希望に添えるようにしています。	周辺遊歩道での散歩、個別の買物、墓参など、希望に沿った支援を行っている。必要に応じて併設デイサービスセンターの車両も使用したドライブも頻繁に行われる。家族の協力も多く得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じてお金を所持しています。買物時は、ご本人が支払いを行うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段からご利用者が電話をかけたり、手紙を書く等の支援を実施している。暑中見舞いや年賀状を家族や知人に出して今まで築かれた関係が途切れないように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂くために、食堂から見えるベランダには時期に合わせた花を植えたり、テーブルに花瓶を置き花を飾る等、少しでも居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。	大きな窓と明かり取りを有するリビングは、明るく落ち着いた印象となっている。掘りごたつのある畳スペースは居心地がよく、装飾も季節感をもって適切に掲出されている。ベランダは景色もよくプランタによる花や野菜が栽培され憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるソファや畳みの間、掘りごたつ等それぞれ思い思いの場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談しながら、馴染みの物や写真等を居室に持ち込んで頂き、安心して過ごせるようにしています。	各居室に格子戸のある「玄関」が作られており、住まいとしての設えが工夫されており、ソファ、時計、家電品、写真、食器などの私物が持ち込まれている。管理者は家族に対して新しい物より使い慣れた物を整えることが大切であると助言している。	作り付けのクローゼットでの収納が可能のためか、入居者によっては私物の持ち込みが少なく感じられる。私物の持ち込みが居心地の良さに繋がることを伝え、協力が得られるよう家族への働きかけを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険の防止や自分の力を活かして動けることを支えるための工夫を心がけています。		